

2020年度 学校法人 滋慶文化学園 福岡医健・スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会(2019年度評価シート)

【2020年6月19日実施】

2019年度 自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		
		適切に対応:4 ほぼ適切に対応:3 やや不適切:2 不適切:1				適切に対応:4 ほぼ適切に対応:3 やや不適切:2 不適切:1	学校関係者評価委員よりの御意見	
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像は、定められているか 2. 育成人材像は専門分野に関連する業界等のニーズに適合しているか 3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか 4. 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4		1. 福岡医健・スポーツ専門学校は滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションとしている。このことを実践するために、「実学教育」「人間教育」「国際教育」という3つの建学の理念を基本に教育を実施している。また、その結果として、学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼の獲得を目指している。 2. 教育課程編成委員会を始め、業界のプロである講師、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、教員による実習巡回など様々な機会を捉えて企業・業界から情報を収集し、業界のニーズに適合した人材育成に努めている。 3. 教育理念の達成に向けて、教育のコンセプトとして、「業界と共に業界が必要とする即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学連携教育」を開校以来、実践してきた。 具体的には、講師の派遣、学習する題材としての企業課題や企業プロジェクトの提供、機材・機器選定のアドバイス、研修・実習の受入など、多岐に渡って協力を頂いている。 また、新入生オリエンテーション、授業、ホームルーム、教科指導、実習指導、生活指導、就職指導などあらゆる機会を通して、3つの教育理念に基づく教育を実践している。 4. 教育課程編成委員会や業界からのアドバイスに基づいて、社会のニーズや業界の変化に合わせて、適宜適切にカリキュラムや授業内容の改善を図っている。	職業人教育は、専門職業教育とキャリア教育から成る。専門職業教育とは、即戦力としての高度な技術・知識の習得であり、キャリア教育とは、プロの職業人として必要な人間力、仕事に対する身構え・気構え・心構えの習得及び職業観・勤労観の確立を言う。 <福岡医健・スポーツ専門学校 3つのポリシー> (1)アドミッションポリシー(入学受入方針) ①将来の夢や目標を持っている人。 ②好きな分野を通じて、人に喜びや感動を与えたい人。 ③本校の教育内容や方針を十分に理解している人。 ④「好きなことを仕事にしたい」という気持ちを持っている人。 (2)カリキュラムポリシー(教育編成方針) ①実学教育:業界において求められる即戦力としての知識・技術を習得する。②人間教育:「今日も笑顔で挨拶を」のスローガンの下、社会人基礎力やセルフマネジメント、チームマネジメント、コミュニケーション力、職業観、仕事観などを育成する。 ③国際教育:英会話教育や海外実学研修などを通して国際的な感性を養い、広く世界に通用する人材を養成する。 (3)ディプロマポリシー(卒業認定等の方針) ①各学科で定めた所定の単位を修得している。 ②業界が求める即戦力としての知識・技術を習得し、職業を通じて社会に貢献できる。 ③職業人としての身構え、気構え、心構えを身に付けると共に、コミュニケーションが取れる。 ④セルフマネジメント、チームマネジメントができる。 ⑤国際的な感性を身に付けている。	4	3・2・1	・教育理念等については、しっかりしている。 ・教育理念、教育目的、育成人材像は、適切に行っている。 ・セルフマネジメント、チームマネジメントは社会に出てから大切なものであるため、しっかり教育をしてほしい。 ・育成人材像や社会のニーズを踏まえた将来構想については、社会や業界の変化に対応することが重要である。 ・即戦力としての技術・知識の習得、社会人としての身構え・気構え・心構えの確立、国際的な感性の修得は大変難しいが、奮闘を期待する。 ・実学教育、人間教育はしっかりとできてきていると思われる。 ・業界側も求める人材が変化していくので、引き続き業界との連携を密に行うことを期待する。 ・国際教育の一環で行われる海外実学研修の参加率は60%前後であるが、参加率の向上が重要である。⇒不参加の学生の一番の要因は経済的な理由によるものであるため、なかなか難しい問題である。 ・育成人材像もはっきりしており、誰もがわかる内容である。 ・産学連携もとても重要でよい。 ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーにある「国際的な感性」とは具体的にどういった完成を示すのか。⇒ただ単にコミュニケーションツールとしての英会話等に止まらず、グローバル化している現代社会において、文化や考え方の違いを受け入れ、日本人としてのアイデンティティを持って広く世界に通用する人材の育成を目指す。 ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが学生に理解しやすい言葉で掲示されており、それを学校が良く実践している。
2 学校運営	1. 理念に沿った運営方針を定めているか 2. 理念等を達成する為の事業計画を定めているか 3. 設置法人は組織運営を適切に行っているか 4. 学校運営の為に組織を整備しているか 5. 人事・給与に関する制度を整備しているか 6. 意思決定システムを整備しているか 7. 情報システム化の取組み、業務の効率化を図っているか	3		1. 滋慶学園の理念の下策定された滋慶学園グループ5カ年計画に基づいて、運営方針を定めている。 2. 事業計画には、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組、業務分掌、各種会議、研修など多岐に渡って明確に示されている。また、広報・教務・就職全ての部署ごとの事業計画も立案される。 内容は、事業計画の核を成す組織目的、運営方針、実行方針、実行計画で構成される。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受けて承認され、全教職員に周知徹底している。 3. 事務局長会議、教務部長会議、また学校単位では、全体会議、リーダー会議、学科会議、国試会議、DO会議、広報会議、各種研修・勉強会等を定期的・継続的に実施し、全ての部署が同じ方針・同じ考え方をもち、全スタッフ協力の下、適正な学校運営の実践とイノベーションに務めている。 4. 及び6. 事業計画の組織図には、学校に関わる人材が明記され、自己の組織上の位置づけを誰もが理解できるようになっている。そして、この組織図に基づいて、適切に意思決定がなされている。 5. 滋慶学園グループの人事・給与等を包括的に管理する(株)滋慶サービスの下、適切に運営されている。また、人事・給与に係る制度は、就業規則に明文化され、全教職員に周知・共有されている。 7. 滋慶学園グループには、IT・情報システムに関わるサポート企業として、(株)プレーンスタッフコンサルタンツと(株)国際教育センターVISTA ARTSの2社があり、情報のシステム化と効率化を図っている。	滋慶学園グループの研修、学校の研修、学科・部署単位の研修、現場で行うOJT、個人で取り組む自己啓発等を通して職員の成長を促進し、学校運営力、クラス運営力の向上を図っている。 朝礼時に、滋慶学園グループの理念を明文化した「滋慶語録」の読み合わせを行うとともに、マネージャーによる解説を加え、理念の周知徹底に取り組み、理念に沿った適切な組織運営を図っている。 また、学科ごとに、それぞれの業界が主催する専門分野に関する研修会にも積極的に参加して、最新の技術・知識の習得を図ると共に、常に業界のニーズの把握に努めている。 <滋慶学園7つの視点> ①攻めと守りの視点 ②グローバルな視点 ③一人ひとりを見てゆく視点 ④企業・業界・社会を見てゆく視点 ⑤事業運営力を持つ視点 ⑥スタッフが成長していく視点 ⑦理念・コンセプト徹底の視点 <人事管理・支援制度> ①勤怠管理システム(働き方改革) ②滋慶EPA職員サポートセンター	4	3・2・1	・トップダウンではなく、ボトムアップになっている手は大変良い。 ・全教職員を対象としたストレスチェック等を導入してはどうか。⇒既に年1回実施しておる。 ・滋慶学園の理念に基づいて、基本事業計画で運営しているので適切に対応している。 ・滋慶学園グループ全体としての判断を今後も期待する。 ・過重労働など改善が人よな部分は把握されており、それに対応を行っている。 ・働き方改革はどの業界でも課題である。特に今回の新型コロナウイルス感染拡大対策に伴い大きく働き方も変わるのではないかと思うし、変えなければいけない。 ・労働時間の管理を行い、どの部署でどの業務にどれだけの時間がかかっているかを精査することで、必要な人員を把握し、各個人の労働時間の削減につながると思われる。 ・教職員の離職率が非常に低いので、そういう面での運営も良好だと思われる。 ・様々な研修システムが構築されており、運営方針に沿った内容になっていると思われる。 ・今後情報システムの更なる構築により業務の効率化、意思決定の支援が期待できる。 ・滋慶EAP職員サポートセンターについて、相談内容が上司に伝わることはないのか。⇒守秘義務は遵守されている。 ・「スタッフの成長」とあるが、ISOでいうところの個人別力量表などの成長度合いを示す具体的な指標などはあるか。⇒現状は具体的な指標等がなく、今後の課題である。 ・定時にタイムカードを押し、その後に残業をする職員がいた場合はどうするのか。⇒サービス残業は絶対にしないよう指導している。実際の業務時間とタイムカードの打刻時間に齟齬がないよう徹底している。

<p>3 教育活動</p>	<p>1. 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 2. 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか 3. 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 4. 教育課程について、外部の意見を反映しているか 5. キャリア教育を実施しているか 6. 授業評価を実施しているか 7. 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 8. 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 9. 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 10. 資格・免許取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>1. 「職業人教育を通して社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションの下、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づいて教育課程編成方針・実施方針を定め、教育を行っている。 2. 学科ごとに教育到達レベルを明確に設定し、それを学生便覧及び教育指導要領に記載するとともに、HPIにもアップしている。加えて、すべての科目のシラバスをHPIにて公開している。 3. 滋慶学園グループ五カ年計画の下作成する学校全体の事業計画に基づいて、教務部としての事業計画を立案し、養成目的と到達目標を明確にし、それに沿った教育課程を編成し、計画的に教育を行っている。 4. 業界のプロである講師からの情報やキャリアセンタースタッフによる企業訪問、教務スタッフによる実習巡回に加え、教育課程編成委員会等を最大限活用して、業界のニーズを的確に捉え、その変化に対応して養成目的や教育目標、カリキュラムの改善を常に実施し、イノベーションを図っている。 5. 実学教育として技術・知識を身に付ける「専門職業教育」に加え、人間教育として職業観・勤労観や仕事に対する身構え・気構え・心構えを身に付ける「キャリア教育」双方を兼ね備えたバランスの良い職業人教育を行っている。このキャリア教育は、授業、実習、就職、イベント、生活指導などあらゆる機会を捉えて実施している。 6. 年2回、学生に授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。 7. 成績評価や進級・卒業認定基準は学則で明確に決められており、それを学生便覧及び教育指導要領に記載して、学生、教職員、講師に周知徹底している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して、適切に運営されている。 9. 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、それを学校パンフレット、学生便覧、教育指導要領等に明記し、学生・教職員・講師に周知している。 10. 滋慶学園グループには、国家試験対策を包括的、科学的、システム的に支援する国家試験対策センターがある。加えて、学校独自で補習、個別指導、グループ学習などを実施している。また、学力を可視化することにより客観的な視点を持ち、一人ひとりのレベルに合わせた指導・対策を行っている。更には既卒の国試不合格者に対してもリスタートセンター等を設置し、卒業後も国試合格に向けた取り組みを実施している。</p>	<p>本校では、職業教育のアプローチとして、3つに時期を捉え、入学前のキャリア形成から、在学中のキャリア設計、卒業後のキャリア開発まで学生の育成・成長にフローで関わり、一人ひとりを大切に教育を行っている。 ①キャリア形成 入学前の時期に、オープンキャンパスやマイスクールを通して、基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期。 ②キャリア設計 在学中は、専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期。 ③キャリア開発 卒業後は、卒業教育等を通して、社会・職業人への移行と更なるキャリア開発をする時期。 <滋慶学園グループの各種組織・システム> ① 滋慶教育科学研究所 ・キャリア教育部会(カウンセラー委員会 進路変更委員会 その他) ・専門教育部会(教育分科会 産学連携委員会 FD委員会 その他) ・国際教育部会 ・職業人教育研究センター ② 滋慶教育科学研究所 国家試験対策センター ③ J-web(国家試験対策e-ラーニングシステム) ④(株)国際教育社 ILC国際語学センター(外国語教育担当部門) ※卒業生対象教育制度 ①卒業後教育制度 ②聴講生・研究生制度 ③卒業生対象国家試験対策リスタートセンター</p>	<p>4 ③ 2・1</p>	<p>・学生授業アンケートの結果は、学生にも公表しているのか。 ⇒学生へは公表していないが希望の講師へは公表をしている。 ・各学科の3つのポリシーを作り、毎日最新の教育と反省のもとに進化しているので、適切に教育活動を行っている。 ・卒業後のキャリア開発の取り組みには期待したい。 ・国家試験に合格できない学生もいるが、学校の教育理念をよく理解しているかなど学生選抜時(入学選考時)に適性をもっと観察することも大切である。⇒入学前のオープンキャンパスや入学前授業を通して、目的意識mwさらに明確に持ってもらうよう努める。 ・問題点を把握していることは非常に良いので、今後、より良い方向に向かうことを期待する。 ・在学中の教育は問題ないと思うが、卒業生に対する講義を定期的実施し回数を更に増やすなど卒業後の教育がもっと充実すればより良いと思う。 ・常に進化し続けて変化対応できる教育を継続していただきたい。 ・割り算など基礎学力が不足している学生が散見されるため、通常の専門教育授業とは別に、基礎学力向上に係る授業を実施すべきである。 ・授業アンケートの実施など、学生からの声を教育活動に反映させながら必要な力をつけさせようとする体制ができていると思われる。 ・カリキュラムは工夫がみられる。 ・専門職業教育には人間教育が基本であり、その工夫もとても良いと思う。 ・コロナの影響でオンライン授業になっており、実技系の授業が遅れているが、その対策は取っているか。⇒夏休み等の長期休暇、土日の休暇、夕方からの授業の実施等で授業の遅れを回復させる予定である。 ・入学前にキャリア形成を実施することは退学率減少の一助になると思われる。 ・授業評価を地道に重ねることはとても重要だと思う。</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>1. 就職率の向上が図られているか 2. 資格・免許の取得率の向上が図られているか 3. 卒業生の社会的評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>①退学率 実績 在校生数 1,271名 退学者数 71名 退学率 5.6% ②就職率 実績100%(5/25) ※第一専門職 ③国家試験合格率 資格 受験者 合格者 合格率 全国平均 柔道整復師 33 23 69.1 64.5 はり師 41 39 95.1 73.6 きゅう師 41 40 97.6 74.3 救急救命士 12 11 91.7 79.6 理学療法士 57 57 100 86.4 作業療法士 21 21 100 87.3 歯科衛生士 35 34 97.1 94.3 看護師 29 28 96.6 92.3 ④その他資格 資格 受験者 合格者 合格率 全国平均 健康運動実践指導者 39 22 56.4 58.1 アスレティックトレーナー 15 5 33.3 非公開 登録販売者 18 15 83.3 43.4 ヘルスケアアドバイザー 33 12 36.3 58.1 医療秘書技能検定(2級) 10 6 60.0 59.8 維持コンピュータ 16 10 62.5 71.4 電子カルテ 8 8 100 90.0 診療情報管理士 6 5 83.3 61.9</p>	<p><定性目標> ①即戦力としての実践力を身に付ける ②人間力を身に付ける(仕事に対する身構え・気構え・心構え) ③組織の中で力を発揮する為のコミュニケーション能力を身に付ける ④プレゼンテーション能力を身に付ける ⑤チームとして仕事をする為のチームワークとリーダーシップを身につける ⑥職業観・仕事観を確立する <教務> ①中途退学率目標2.7% ②資格合格率100% <就職> ①就職率100%(3/31) ②第1専門職での就職 ③ミスマッチによる早期退職の防止 ※奨学金貸与と学生にたいしては、余裕をもって返済可能な収入を確保できる就職先の斡旋に努めている。</p>	<p>4 ③ 3・2・1</p>	<p>国家試験合格率が全国平均を上回っていることは、教育プログラム等の成果が出ていると考える。 ・資格、免許の取得率も全国平均よりも高く、就職率も100%で大変良い。 ・卒業生も業界の中では大変良い。 ・就職率100%は素晴らしいと思う。 ・卒業生の社会的評価はどうか気になる。⇒評価を聞いている限りにおいては、高評価ではあるが、卒業生の評価に係る絶対量が少ないため、更なる性差が必要である。 ・学生の適性をもっと考えて、退学者をさらに少なくすることが大切である。 ・就職100%であっても、早期離職もあるので観察が必要である。 ・一般的に最近の傾向として1年以内の離職が増えているが、それでは社会的評価は得られないので、早期離職の防止に取り組むことが重要である。 ・退学数を減らすためには、退学理由を分析し対策をとることが重要である。 ・退学率が改善されているのは好ましいことである。 ・各資格合格率が全国平均を上回っていることは素晴らしいが、薬業科のヘルスケアアドバイザーの合格率は全国平均を大きく下回っているため、更なる資格取得率向上に努めてもらいたい。 ・資格の取得が貴校の最も大切な部分であると思うので、一層の合格率向上に向けた取り組みをお願いしたい。 ・退学率が少し高いように感じる。高校側もミスマッチのないように心がけたいと思う。 ・年々努力が実っている。 ・ミスマッチの予防が大事。 ・退学率については、わずかではあるが改善がみられる。 ・国試合格率は生命線という側面があるが、貴校は全て全国平均を上回っており大変よい。</p>

<p>5 学生支援</p>	<p>1.就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか</p> <p>2. 退学率の低減が図られているか</p> <p>3. 学生相談に関する体制を整備しているか</p> <p>4. 留学生に対する相談体制を整備しているか</p> <p>5. 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか</p> <p>6. 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p> <p>7.学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか</p> <p>8. 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p> <p>9. 保護者との連携体制を構築しているか</p> <p>10. 卒業生への支援体制を整備しているか</p> <p>11. 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか</p> <p>12. 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 就職については就職を専門とするキャリアセンターが担当し、学内で実施する合同企業説明会、就職ガイダンス、就職出陣式などの就職イベントの実施を始め、求人獲得、履歴書指導、面接指導、業界情報の収集およびフィードバックなど様々な支援を行っている。また、卒業式までに就職が決まらない場合でも、全員の就職が決まるまで卒業後も支援を続けている。合わせて、卒業後の転職も支援している。</p> <p>2. 本校は担任制度を引いており、担任を中心にポートフォリオや個別面談等を駆使して一人ひとりの学生に対して細やかな支援を行っている。また、退学理由の分析や退学防止対策、成功事例などについて研修や勉強会を随時実施し担任力の向上を図ると共に、滋慶学園グループ独自の支援機関や支援制度を活用して退学率の低減に努めている。</p> <p>3. 担任による相談に加え、学生の相談支援機関として、滋慶トータスサポートセンター福岡を設置し、常駐のスクールカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）がカウンセリングも実施している。</p> <p>4. 留学生に対する支援や相談を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、その下に各地区に留学生担当を設け、担任と連動して留学生支援に当たっている。</p> <p>5. 経済的支援については、相談窓口として事務局会計課を設置するほか、学費や奨学金、教育ローン等についてのアドバイスをするファイナンシャルアドバイザー及び奨学金担当者を配置している。また、学費分割納入制度、留年時の学費を免除する長期履修制度、滋慶学園独自の滋慶奨学金など、様々な支援体制を整備している。</p> <p>6. 毎年1回、在校生の健康診断を実施している。また、健康支援として慶生会クリニックがあり、在学中の健康維持支援を行っている。診療科目は、内科、歯科で、治療費の自己負担はなく、薬代も返金される。</p> <p>7. 6棟645名分の滋慶学園専用寮や学生食堂、駐輪場などを設置し、生活環境支援を行っている。</p> <p>8. 学生の課外活動であるクラブ活動も体育系クラブから文化系クラブまで様々あり、充実している。</p> <p>9. 保護者との連携は、定期的な成績報告・出席報告・保護者会の実施に加え、学生の状況に応じて、担任が常に保護者と連携・協力をすると共に、必要に応じて三者面談を行うなど保護者と連携した学生支援に当たっている。</p> <p>10・11. 卒業生に対する支援としては、定期的・継続的に卒後教育を実施すると共に、年1回同窓会を実施し、情報の共有を図っている。</p> <p>12. 社会環境の変化に応じて、常に学科、コース、教育内容等のイノベーションを図り、社会のニーズを踏まえた教育環境を整えている。</p>	<p><令和元年度求人件数> 3,854企業</p> <p><令和元年度留学生数> 1名(歯科衛生士科)</p> <p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトの下、学生満足の向上のため、様々な支援体制を整備している。</p> <p><主な支援機関></p> <p>① 滋慶トータルサポートセンター福岡 ② 医療法人慶生会 慶生会クリニック(内科・歯科) ③ 慶生鍼灸院 ④ キャリアセンター ⑤ 滋慶学園専用寮 (スチューデントハイム・アソシエイト) ⑥ 学生食堂(滋慶レストラン) ⑦ 事務局会計科 ⑧ ファイナンシャルアドバイザー ⑨ 進路変更委員会 ⑩ 国際交流COM</p> <p><主な支援制度></p> <p>① 進路変更制度 ② 長期履修制度 ③ 学費分割納入制度 ④ 滋慶奨学金 ⑤ 担任制度 ⑥ 聴講生・研究生制度 ⑦ 卒業後教育制度 ⑧ 既修得単位認定制度</p> <p><その他></p> <p>① 各種クラブ活動 ② 駐輪場の整備 ③ 高等教育修学支援新制度の対象機関として認定を受けた</p>	<p>4・3・2・1</p>	<p>・学校としての学生支援体制としては十分と考える。</p> <p>・学生に対する個別面談等を実施している為、評価できる。</p> <p>・学生に対して金銭面、精神面共に気を使い注意している。また、金銭的にも考慮し、学生が勉強に励むように行っているのが適切である。</p> <p>・今後も今の取り組みを継続してほしい。</p> <p>・経済的支援は今後さらに重要となってくるが、現時点でこれだけできていけば十分だと思われる。</p> <p>・経済的支援を学生や保護者に対して周知徹底し、特に現在のコロナウイルス禍で困っている学生を可能な限り救済することを期待する。</p> <p>・留年時の学費免除は素晴らしい。</p> <p>・グループ内に病院があり、治療費及び薬代の自己負担なしの全額支援も素晴らしい。</p> <p>・年1回の同窓会の出席率はどのくらいか。⇒同窓会の出席率は大変低い。特に卒業後、時間の経過とともに参加率は落ちてくるのが今後の課題である。</p> <p>・グループ全体としての支援体制が十分整っているとと思われる。</p> <p>・多岐に渡る支援体制ができています。</p> <p>・今後の教育環境については、実習受け入れの方法などこれからも考えていく必要がある。</p> <p>・充実した支援だと思う。学校側の説明の通り、それを学生や保護者へより知ってもらうことが重要である。</p> <p>・滋慶学園専用寮や学生食堂における感染対策はどのように行われているか。⇒文部科学省をはじめとする行政からの指針・指導にのっとり、更に滋慶学園独自の厳しい対策マニュアルをもとに徹底した感染対策を実施している。</p> <p>・手厚く健康面もサポートされている。</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p> <p>2. 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施制度を整備しているか</p> <p>3. 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか</p> <p>4. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 施設・設備・機器類などについては、設置基準及び関連法規に全て適合しているだけではなく、その目的を達成する為に必要な最新の施設・設備を揃え、常に万全の状態ですべて活用できるよう定期点検・維持管理を行っている。</p> <p>2. 即戦力としての技術・知識・実践力を身に付けさせる為に、多岐に渡る様々な実習先の開拓を常に行い、学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制を整備している。</p> <p>また、それぞれの業界のプロとして、現場経験豊富で高い技能を有した優秀な人材を常に発掘して、講師として就任して頂いている。</p> <p>3. 防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。</p> <p>4. ガードマンが常駐し、館内警備にあたると共に、安心安全な教育環境を学生に提供するために、福岡県警察や行政、消費生活センターなど専門機関と連携をして、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など様々な安全講習を実施している。</p> <p>更に、校内の整理・整頓・清掃・整備を徹底し、学生が気持ちよく最善の環境で勉強できるよう、常に万全の体制を整えている。</p>	<p>滋慶学園グループには、滋慶教育科学研究所(JESC)を始めとして、教育環境をサポートする企業・組織が多く存在し、グループ総力を挙げて教育環境の整備にあたっている。</p> <p><サポート企業・組織の一例></p> <p>① ジケイ・スペース㈱ ② DUCE ③ ㈱プレーンスタッフコンサルタンツ ④ VISTA ARTS ⑤ 西部建設</p> <p><その他></p> <p>① ガードマンの配置による安全確保 ② 緊急時安否確認システムによる学生の安全確保の推進</p>	<p>4・3・2・1</p>	<p>・学校が実施する避難訓練や安全講習の参加率は100%か。</p> <p>⇒安全講習は、新入生オリエンテーションで実施するため、ほぼすべての学生が受講している。避難訓練は、訓練実施日に休んだ学生は受けていない。</p> <p>・参加できなかった学生へのフォローはどうなっているか。</p> <p>⇒安全講習については、後日資料等を配布して個別指導を行っているが、避難訓練を休んだ学生へのフォローはできていない。</p> <p>・最新の設備が整っており、また、各業界での研修も行っているのが教育環境も適当である。</p> <p>・現状に問題はないが、これで十分ということもないので、なお一層の取り組みをお願いしたい(取り組めばいくらでもやることは出てくる)。</p> <p>・環境がこれだけ整っていれば問題ないと思う。</p> <p>・安否確認システムについて、緊急時に実際に使えるかが重要であるが、訓練は実施されているのか。安否確認は100%把握できているか。⇒避難訓練時に安否確認システムの訓練を行っているが、回答がない学生もいることが今後の課題である。</p> <p>・防災体制は素晴らしい。</p> <p>・余力ができれば、施設面でプールの設置を考えてもらいたい。</p> <p>・外部のサポート企業が多いのは強みであると思う。引き続き、取り組みを続けていっていただきたいと考える。</p> <p>・看護学においては、もう少し人に対する洞察ができるような環境を作っていただきたい。</p> <p>・危機管理としては、学生自身の危機意識やリスクマネジメントを上げる必要があると思う。</p>

<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>1. 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 2. 学生募集を適切かつ効果的に行っているか 3. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 4. 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか 5. 経費内容に対し、学納金を算定しているか 6. 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 高等学校等への情報提供窓口として専任の担当者を設けている。また、高校教諭対象の学校説明会の開催や定期的・継続的に高校訪問を実施しているほか、各種媒体、入学案内パンフレット、各種ガイダンス、オープンキャンパス、ホームページなどを活用して、適宜適切に正しい情報をの提供に努めている。</p> <p>2. 本校は、福岡県専修学校各種学校協会に加盟し、高等学校と同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。</p> <p>また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集を行うように配慮すると共に、広告倫理委員会を設置し、適切に広報活動が行われているかをチェックしている。</p> <p>3. 入学資格、出願方法、選考日程、専攻科目等の入学選考基準を学生募集要項に明示するとともにホームページにもアップしている。これに基づいて入学選考を行い、「入学選考会議」により可否を決定している。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接」及び「作文」「調査書」による書類選考であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。ただし、競争倍率が一定程度発生する看護科に於いては「現代文」「数Ⅰ」「小論文」の筆記試験を行なっている。</p> <p>4. 入学選考に伴う面接や高等学校調査書において収集した情報・実績を把握・活用し、授業改善に努めている。</p> <p>5. 学校納付金については、事業計画に基づいて経費内容を十分に吟味・考慮の上、適正に設定されている。</p> <p>6. 入学辞退者の授業料等については、3月31日までに入学辞退の申し出があった場合は、入学金を除き学費等を全て返還している。しかし、4月1日以降は、最高裁の判例に基づき、海外研修積立金などの預り金以外は、返金できない。また、このことは、学生募集要項に於いて、「学費一覧」ページに明記している。</p>	<p>本校の広報活動は、入学前のキャリア形成の時期と捉え、オープンキャンパスや広報イベント、マイスクール等を通して、自己発見をすると共に、基盤となる職業観・勤労観を確立してもらうことを目的としている。よって、入学前に職業イメージをどれだけ明確に持っているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回の参加を促し、本校及び目指す職業を充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p><関連部署> COM福岡高校センター COM福岡広報センター</p> <p><2020年度新入生></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>定員</th> <th>定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復科</td> <td>90名</td> <td>90名</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>鍼灸科</td> <td>45名</td> <td>60名</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>救急救命科</td> <td>38名</td> <td>35名</td> <td>109%</td> </tr> <tr> <td>スポーツ科学科</td> <td>72名</td> <td>80名</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>医療事務ビジネス科</td> <td>11名</td> <td>20名</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>薬業科</td> <td>26名</td> <td>40名</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>理学療法科</td> <td>80名</td> <td>80名</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>作業療法科</td> <td>17名</td> <td>40名</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士科</td> <td>38名</td> <td>40名</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>看護科</td> <td>44名</td> <td>40名</td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>461名</td> <td>525名</td> <td>88%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※更なる定員充足率を高める取り組みを行う</p>		定員	定員	充足率	柔道整復科	90名	90名	100%	鍼灸科	45名	60名	75%	救急救命科	38名	35名	109%	スポーツ科学科	72名	80名	90%	医療事務ビジネス科	11名	20名	55%	薬業科	26名	40名	65%	理学療法科	80名	80名	100%	作業療法科	17名	40名	43%	歯科衛生士科	38名	40名	95%	看護科	44名	40名	110%	合計	461名	525名	88%	<p>4・3・2・1</p>	<p>・定員割れしている学科については、同一分野を持つ他行も同様の状況か。⇒学校によっては、定員を満たしている学校もある。 ・高等学校への情報提供は適切に行っている。 ・社会人にも門戸を開いている。 ・入学選考も適切に行っている。 ・学生の希望もあるので難しいと思うが、学科によって定員充足率にばらつきがあるので、各学科定員数を満たすことを目標により一層の努力が必要。 ・定員を割っている学科の問題点は何なのか。問題点から充足率を高める具体的な対策、取り組みを実施することが重要である。 ・定員充足率が100%でない学科については、その要因・理由を再分析して、全ての学科で充足率100%を達成することが重要である。 ・学科によって充足率に差が出るのは仕方ないことだと思うが、資格の取得状況をさらに改善して、その後方に力を入れていただくよと思う。 ・入学選考については競争倍率のみではなく、学力の担保としても必要。それも踏まえううえで、充足率を上げる努力も必要である。 ・医療事務ビジネス科や薬業科、作業療法科の定員充足率が低いので、高校等への情報提供に加え、更なる努力が必要である。 ・少子高齢社会の中、オープンキャンパス等で適正に学生募集を行っている。</p>
	定員	定員	充足率																																																			
柔道整復科	90名	90名	100%																																																			
鍼灸科	45名	60名	75%																																																			
救急救命科	38名	35名	109%																																																			
スポーツ科学科	72名	80名	90%																																																			
医療事務ビジネス科	11名	20名	55%																																																			
薬業科	26名	40名	65%																																																			
理学療法科	80名	80名	100%																																																			
作業療法科	17名	40名	43%																																																			
歯科衛生士科	38名	40名	95%																																																			
看護科	44名	40名	110%																																																			
合計	461名	525名	88%																																																			
<p>8 財務</p>	<p>1. 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 2. 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 3. 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 4. 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか 5. 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか 6. 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>	<p>4</p>	<p>1. 毎年5か年の事業計画を作成し、中長期の視点で5か年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。</p> <p>2. 5か年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。</p> <p>3. 5か年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成している。</p> <p>4. 適切かつ適正な予算管理を行うため、費用対効果を十分に考慮した効率的な予算執行を行うと共に、予算の執行・消化状況を毎月チェック・管理している。また、一旦作成した予算であっても現実と乖離した場合は、当初予算を修正する必要がある。その為、短期予算においては、半期が終了した段階で修正予算を組み、中長期予算においては、毎年編成をしない。</p> <p>5. 学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営が出来ている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>さらに、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>6. 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在は、平成30年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の7月末を目途に、令和元年度財務情報に更新予定。</p>	<p>当校が属する法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。</p> <p><組織体制> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者</p> <p><公開資料> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 資金収支計算書 4. 消費収支計算書 5. 監査報告書</p> <p><閲覧場所> 法人本部</p>	<p>4・3・2・1</p>	<p>・財務管理は十分である。 ・長期、短期の予算管理を適正に行いながら、業務を適切にやっている。 ・今回のようなパンデミックの対応を今後もよろしく願う。 ・独自の予算管理システムを活用して、担当者レベルでリアルタイムに予算管理ができていたは大変良い。 ・国から補助金が出ているものと思っていたが、補助金なしでこれだけ収支バランスが取れているのは素晴らしい。 ・特に問題ないと思う。 ・更なるIT化で業務効率と透明性が向上するものと期待できる。</p>																																																

<p>9 法令等の遵守</p>	<p>1. 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか 2. 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか 3. 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 4. 自己評価結果を公表しているか 5. 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 6. 学校関係者評価結果を公表しているか 7. 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか</p>	<p>4</p>	<p>1. 法令や設置基準の遵守に対する方針は、滋慶学園グループとして明文化され、法令遵守に対応する体制は整備できている。また、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めると共に、現場に於いては、ガバナンスを十分に利かせた学校運営を行っている。そして、学校運営が適切かどうかは、次の各調査等を通してチェックし、法人理事会のもとにコンプライアンス委員会が判断している。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 ⑤学校施設認定規則に基づく報告</p> <p>2. 資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など学校が保有する個人情報は、個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。また、学生、教職員、講師は、毎年ICリテラシーで巣をを受けて、個人情報保護に係る知識の充実と意識の確立を図っている。</p> <p>3. 4. 毎年、自己評価・自己点検を実施し、その結果をホームページ等で公開している。</p> <p>5. 6. 学校評価規定に基づき学校関係者評価委員会を組織し、自己評価・自己点検を基に外部委員による学校関係者評価を行い、その結果をホームページ等で公開している。</p> <p>7. 情報公開規定に基づき、あらゆる教育情報をホームページ、各種SNS、学校パンフレット、オープンキャンパスなど様々な方法で随時公開している。</p>	<p><法令順守に係る組織体制・システム></p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。委員長は、統括責任者である法人の常務理事が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長等で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓蒙活動の推進である。</p> <p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。</p>	<p>4・3・2・1</p>	<p>・法令遵守も十分に行われている。 ・法令等も遵守しているので適切である。 ・特に問題はない。 ・学生に対して、情報管理の部分でSNS等への注意喚起に力を入れていただきたい。昨今個人情報の流出などで事件も発生しているので、徹底した教育が必要である。 ・法令順守体制は十分整っていると思うので、特に情報管理を徹底していただきたいと思う。 ・しっかりできている。</p>
<p>10 社会貢献</p>	<p>1. 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 国際交流に取り組んでいるか 3. 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 本校では、業界団体や企業、行政、高等学校等の教育機関、地域等とタイアップして行うスポーツイベント、障害者支援イベント、市民イベント、救護活動、救命講習、公園清掃、中学や高校での特別講義やスクールトレーナー活動など様々な取組を実施している。</p> <p>また、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動を通して、節電、冷房28度・暖房20度設定、階段利用促進(2アップ3ダウン)、ゴミ削減、資源有効利用などの取組を実施している。</p> <p>産学連携教育というコンセプトの下、日々の授業や実習等がそのまま社会貢献につながるような企画を増やし、社会・地域と学校・学生が、win-winの関係になるよう努めている。</p> <p>2. 国際交流や留学生支援を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、留学生支援を始めとして国際交流に当たっている。滋慶学園福岡各校にも、様々な国から多くの留学生が入学しており、国を超えた交流イベントも積極的に実施している。</p> <p>3. 学生の社会貢献並びにキャリア教育の一環としてとして、学生のボランティア活動を奨励・支援している。学科によっては、単位認定条件を定め、それを学生便覧に明文化しボランティア活動に参加したものには、特別単位を認定している。</p>	<p>本校では、教職員及び学生が様々な社会貢献活動・地域貢献活動を行っている。</p> <p>① 西日本新聞社主催全国柔剣道大会(金鷲旗・玉竜旗)のメディカルサポート ② 高校総体(インターハイ)での救護活動 ③ FBS24時間テレビ募金活動支援 ④ 高等学校柔道大会の救護活動 ⑤ 各種団体とタイアップして行うイベント支援 ⑥ 高等学校での特別講義・トレーナー活動 ⑦ 各種団体・自治体主催のスポーツイベント支援 ⑧ 高等学校や福祉施設等での救命講習会の開催 ⑨ 全国高等学校選抜自転車競技大会のメディカルサポート ⑩ 献血活動への協力(任意)</p>	<p>4③2・1</p>	<p>・ボランティア活動に参加しない学生に対する社会貢献意識の教育・確率が重要である。 ・学生が学内でも社会貢献を行える環境を作っているし、また、ボランティア活動も積極的に行っているので適切である。 ・様々な社会貢献、地域貢献活動があり、キャリア教育にしっかり役立っていると思う。 ・社会貢献は学生のモチベーションもあり、活発な学生もいればそうでない学生もいる。もランティアも様々あるので、積極的な参加を希望する。 ・留学生を多く受け入れることが必ずしも国際交流とは限らない。留学生によって本来の授業が損なわれないようにしないといけない(留学生への手厚い支援も必要)。 ・学科によっては、実学教育に関係した社会貢献がまだまだできていないところがある。 ・冷房の温度設定が28℃とあるが、勉強の効率が最も上がる温度設定が重要である。⇒授業内容、気温、湿度等に合わせて、適宜適切な温度設定を行う。 ・金鷲旗柔道大会、玉竜旗剣道大会におけるメディカルサポートは素晴らしい社会貢献である。 ・高校生への支援を多く行っていただいていることをとてもありがたく思う。学生の皆さんの充実した姿が一番の工夫であると思う。 ・社会貢献はしっかりできているが、更なる活動を期待する。 ・コロナ化で昨年度までの地域貢献活動はほぼできないのではないかと、その対処が必要。</p>